令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　南小倉　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

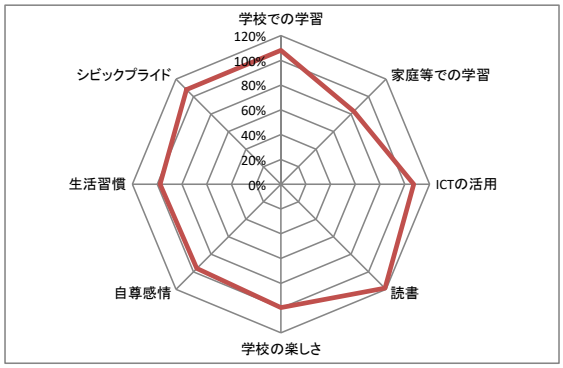
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 ・無回答率が高い。 ・「書くこと」に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題	

算数	全体的な 傾向や特徴など	・目的に応じて、表やグラフを読み取る「データの活用」に課題が見られる。 ・記述式の問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求める問題	
	努力が必要な問題	図形の意味や性質を基にして考え、角度を求めたり、面積を比較した理由を記述する問題	

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「読書」についての肯定的な回答の割合が全国平均を大きく上回っており、普段から読書に親しんでいる児童が多いことが分かる。 ・「ICTの活用」について肯定的な回答の割合が、全国平均を上回っている。授業におけるICTの活用については肯定的な回答が90%を超えており、ICTの活用が定着してきている。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思うか」についての肯定的な回答が95%を超えているなど、自尊感情が向上している傾向がある。 ・「家庭等での学習」について課題が見られる。特に、家庭学習の時間（塾等を含む）が全国平均と比較して、少ない傾向にある。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

「学習のまとめを児童自身が考えて書く」「短文で書く」「型にはめて書く」等、児童が考えを記述する機会を意図的に設けるようにし、書く力・考えを記述する力の定着を図る。また、担任外教員による少人数指導や補充学習については、今後も継続して取り組んでいく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の内容を工夫するなどして、学年×10分の家庭学習の定着を目指す。また、今年度も継続して取り組んでいる「学びウィーク」（自主学習推進の取組）について、その活用方法や家庭への周知の方法について学力向上推進部を中心として検討し、実践していく。